

---

# 2018年度決算説明会

2019年5月13日  
Hitz日立造船株式会社  
取締役会長兼社長 谷所 敬

## 目次

---

1. 2018年度連結決算概況
2. 2019年度業績見通し
3. セグメント別詳細
4. 2018年度事業トピックス
5. 補足資料（小セグメント）

---

# 1. 2018年度連結決算概況

- 受注高が4,500億円を超えたこと
- 営業利益は11月見通しを下回ったものの、  
経常利益・当期純利益は同見通しを上回ったこと

(億円)

	2017年度		2018年度			比較	
	実績 (a)	見通し (2018/11)	見通し (2019/3) (b)	実績 (c)	対 2019/3 (c)-(b)	対 前年度 (c)-(a)	
	(利益率)	(利益率)	(利益率)	(利益率)	(利益率)	(利益率)	
受注高	4,004	4,300	4,300	4,550	250	546	
売上高	3,764	3,800	3,800	3,781	▲ 19	17	
営業利益	(1.6%) 59	(2.4%) 90	(2.4%) 90	(1.9%) 73	(▲ 0.5%) ▲ 17	(0.3%) 14	
経常利益	(0.9%) 33	(1.7%) 65	(1.7%) 65	(1.8%) 67	(0.1%) 2	(0.9%) 34	
親会社株主に帰属 する当期純利益	(0.6%) 21	(1.3%) 50	(1.3%) 50	(1.4%) 54	(0.1%) 4	(0.8%) 33	

(億円)

	2017年度	2018年度			比較	
	実績 (a)	見通し (2018/11)	見通し (2019/3) (b)	実績 (c)	対 2019/3 (c)-(b)	対 前年度 (c)-(a)
環境・プラント	2,572	2,800	2,900	3,147	247	575
機械	984	1,000	1,000	1,007	7	23
インフラ	343	400	300	276	▲ 24	▲ 67
その他	105	100	100	120	20	15
計	4,004	4,300	4,300	4,550	250	546

(億円)

	2017年度	2018年度			比較	
	実績 (a)	見通し (2018/11)	見通し (2019/3) (b)	実績 (c)	対 2019/3 (c)-(b)	対 前年度 (c)-(a)
環境・プラント	2,318	2,400	2,400	2,283	▲ 117	▲ 35
機械	1,006	1,000	1,000	1,066	66	60
インフラ	334	300	300	318	18	▲ 16
その他	106	100	100	114	14	8
計	3,764	3,800	3,800	3,781	▲ 19	17

(億円)

	2017年度	2018年度			比較	
	実績 (a)	見通し (2018/11)	見通し (2019/3) (b)	実績 (c)	対 2019/3 (c)-(b)	対 前年度 (c)-(a)
環境・プラント	13	55	65	56	▲ 9	43
機械	25	20	10	▲ 3	▲ 13	▲ 28
インフラ	11	10	10	13	3	2
その他	10	5	5	7	2	▲ 3
計	59	90	90	73	▲ 17	14



(億円)

<b>2017年度 営業利益</b>		<b>59</b>
<b>増減内訳</b>	・Inova社の赤字縮小	+22
	・環境国内の収益改善 他	+20
	・機械部門の工事採算悪化	▲ 28
<b>2018年度 営業利益</b>		<b>73</b>

(億円)

	2017年度	2018年度	比較
金利負担額	▲ 6	▲ 6	0
持分法による投資損益	5	7	2
その他営業外損益	▲ 25	▲ 7	18
営業外損益 計	▲ 26	▲ 6	20

(億円)

		2017年度	2018年度	比較
キャッシュ・フロー	営業活動によるキャッシュ・フロー	▲ 34	▲ 54	▲ 20
	投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 107	▲ 76	31
	財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 40	149	189
	現金・現金同等物の増減額 (注1)	▲ 181	16	197
	現金・現金同等物の期首残高	508	327	▲ 181
	現金・現金同等物の期末残高	327	343	16

		2017年度	2018年度	比較
有利子負債	借入金 (注2)	972	1,013	41
	社債	100	250	150
	合計	1,072	1,263	191

(注1)為替換算差額含む (2017年度:0, 2018年度:▲3)

(注2)リース債務を含む

---

## 2. 2019年度業績見通し

(億円)

	2018年度		2019年度				比較			
	実績		中計 (2017/5)		見通し (2019/5)		対中計 (c)-(b)		対2018年度 (c)-(a)	
	(a)		(b)		(c)		(c)-(b)		(c)-(a)	
	(利益率)		(利益率)		(利益率)		(利益率)		(利益率)	
受注高	4,550		4,600		4,000		▲ 600		▲ 550	
売上高	3,781		4,300		3,800		▲ 500		19	
営業利益	(1.9%)	73	(4.8%)	205	(3.2%)	120	(▲ 1.6%)	▲ 85	(1.3%)	47
経常利益	(1.8%)	67	(4.2%)	180	(2.1%)	80	(▲ 2.1%)	▲ 100	(0.3%)	13
親会社株主に帰属 する当期純利益	(1.4%)	54	(2.3%)	100	(1.3%)	50	(▲ 1.0%)	▲ 50	(▲ 0.1%)	▲ 4

(億円)

	2018年度	2019年度		比較	
	実績 (a)	中計 (2017/5) (b)	見通し (2019/5) (c)	対中計 (c)-(b)	対2018年度 (c)-(a)
環境・プラント	3,147	2,900	2,400	▲500	▲747
機械	1,007	1,150	1,100	▲50	93
インフラ	276	430	400	▲30	124
その他	120	120	100	▲20	▲20
計	4,550	4,600	4,000	▲600	▲550

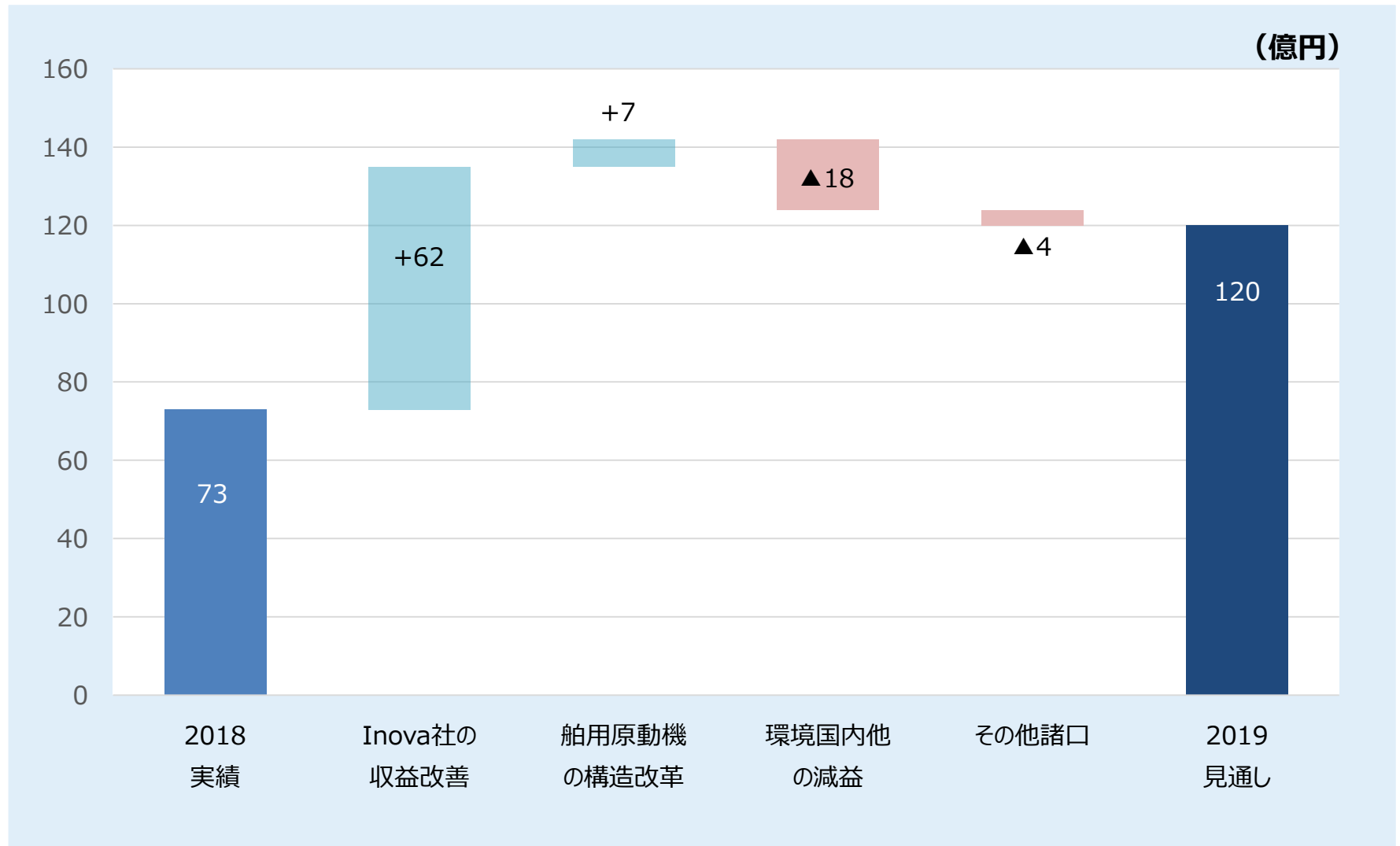
(億円)

	2018年度	2019年度		比較	
	実績 (a)	中計 (2017/5) (b)	見通し (2019/5) (c)	対中計 (c)-(b)	対2018年度 (c)-(a)
環境・プラント	2,283	2,730	2,400	▲330	117
機械	1,066	1,100	1,000	▲100	▲66
インフラ	318	350	300	▲50	▲18
その他	114	120	100	▲20	▲14
計	3,781	4,300	3,800	▲500	19

(億円)

	2018年度	2019年度		比較	
	実績 (a)	中計 (2017/5) (b)	見通し (2019/5) (c)	対中計 (c)-(b)	対2018年度 (c)-(a)
環境・プラント	56	135	100	▲35	44
機械	▲3	45	10	▲35	13
インフラ	13	20	5	▲15	▲8
その他	7	5	5	0	▲2
計	73	205	120	▲85	47



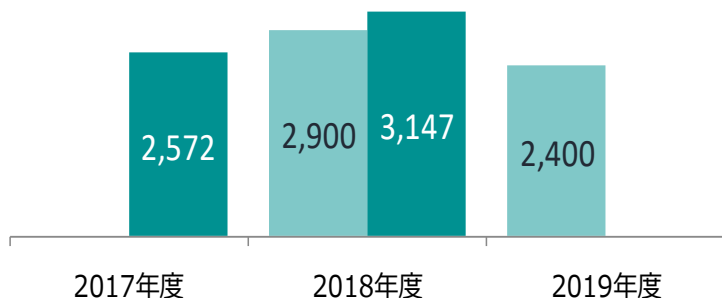


---

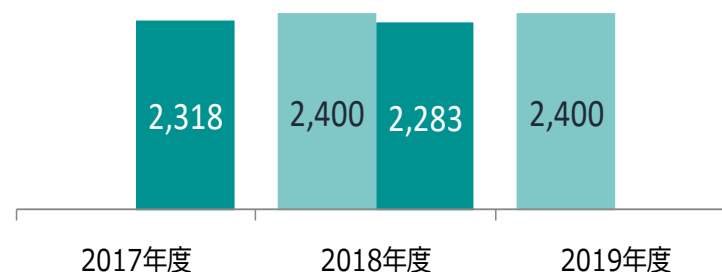
## 3. セグメント別詳細

【受注高】 (億円)

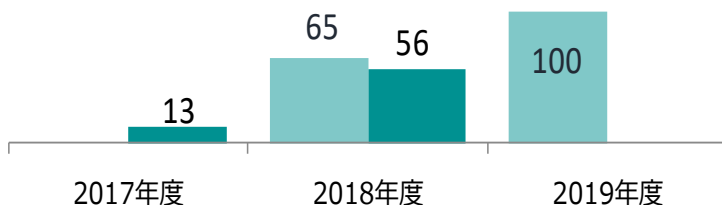
■ 見通し (2018年度は2019年3月公表値) ■ 実績



【売上高】



【営業損益】



## 受注高

### ■ 2018年度実績 (2017年度比)

3,147億円 (+575億円)

- ・Inova社で英国向けEPC案件受注
- ・国内エネルギーと水処理事業で大口案件 (EPC+運営・メンテ)を受注

### ■ 2019年度年間見通し (2018年度比)

2,400億円 (▲747億円)

- ・環境国内で案件が少ないため、EPC・継続的の事業ともに減少

## 売上高

### ■ 2018年度実績 (2017年度比)

2,283億円 (▲35億円)

- ・環境国内EPCは増加も、海外向け海水淡水化プラントの減少をカバーしきれず

### ■ 2019年度年間見通し (2018年度比)

2,400億円 (+117億円)

- ・Inova社でEPC案件の進捗およびサービス事業・バイオガス事業の伸長を見込む

## 営業損益

### ■ 2018年度実績 (2017年度比)

56億円 (+43億円)

- ・Inova社でEPC案件の赤字縮小
- ・環境国内EPCの採算改善

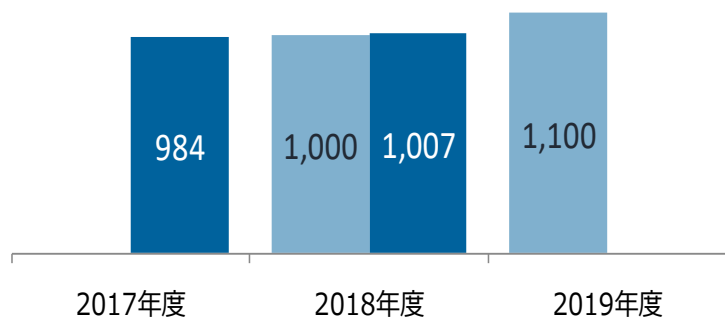
### ■ 2019年度年間見通し (2018年度比)

100億円 (+44億円)

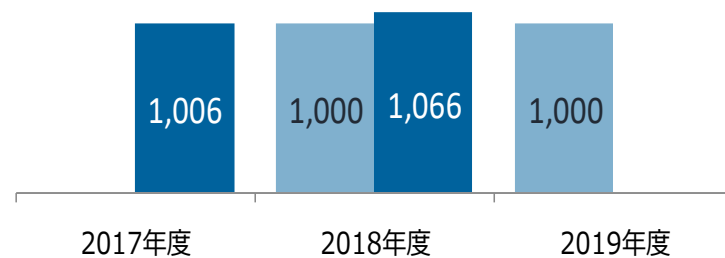
- ・Inova社の収益改善を見込む

## 【受注高】 (億円)

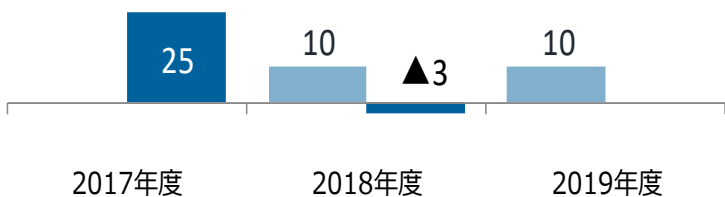
■ 見通し (2018年度は2019年3月公表値) ■ 実績



## 【売上高】



## 【営業損益】



## 受注高

### ■ 2018年度実績 (2017年度比)

1,007億円 (+23億円)

・プロセスと精密機械が減少するも、船用原動機が増加

### ■ 2019年度年間見通し (2018年度比)

1,100億円 (+93億円)

・プロセスの回復と船用原動機の増加

## 売上高

### ■ 2018年度実績 (2017年度比)

1,066億円 (+60億円)

・プロセスが増加

### ■ 2019年度年間見通し (2018年度比)

1,000億円 (▲66億円)

・プロセス、精密機械およびプレスが減少

## 営業損益

### ■ 2018年度実績 (2017年度比)

▲3億円 (▲28億円)

・プレス、船用原動機およびプロセスの収益悪化

### ■ 2019年度年間見通し (2018年度比)

10億円 (+13億円)

・プレス、船用原動機およびプロセスで収益改善を見込む

## 【受注高】 (億円)

■ 見通し (2018年度は2019年3月公表値) ■ 実績



## 【売上高】



## 【営業損益】



## 受注高

### ■ 2018年度実績 (2017年度比)

276億円 (▲67億円)  
・橋梁の大口工事の減少

### ■ 2019年度年間見通し (2018年度比)

400億円 (+124億円)  
・橋梁の回復を見込む

## 売上高

### ■ 2018年度実績 (2017年度比)

318億円 (▲16億円)  
・橋梁の大口工事が進捗するも、海洋の大口工事が減少

### ■ 2019年度年間見通し (2018年度比)

300億円 (▲18億円)  
・2018年度受注減少の影響

## 営業損益

### ■ 2018年度実績 (2017年度比)

13億円 (+2億円)  
・橋梁の収益改善

### ■ 2019年度年間見通し (2018年度比)

5億円 (▲8億円)  
・減収および高採算案件の減少

---

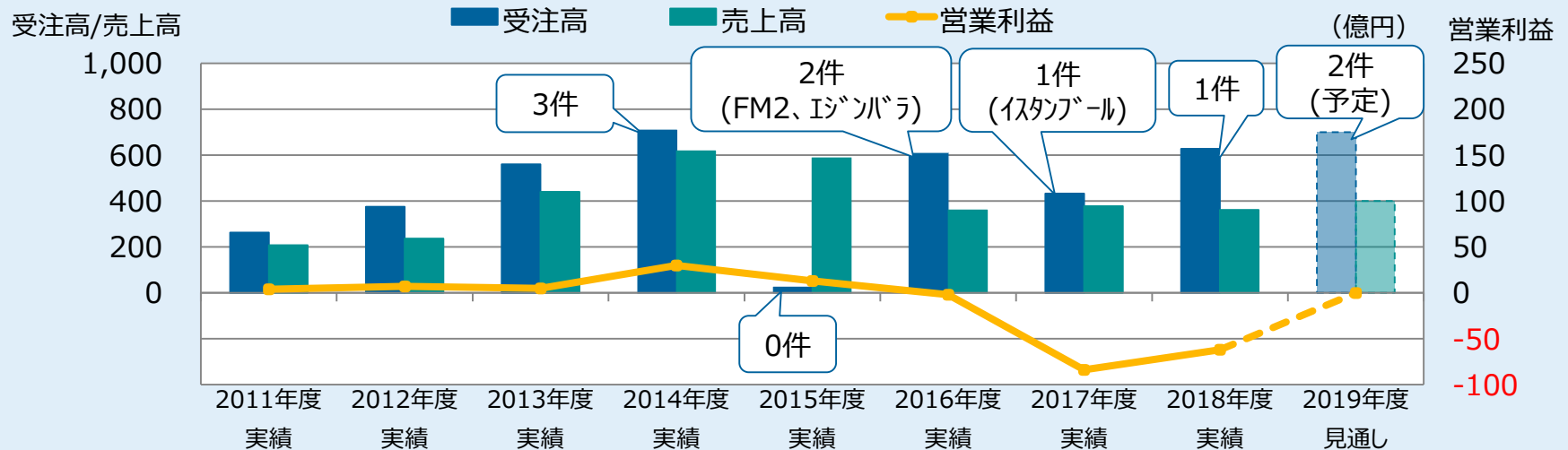
## 4. 2018年度事業トピックス

EfW : Energy from Waste

## ① Inova社 事業概要

項目	
主要事業	EfW施設(都市ごみ焼却・有機性ごみ乾式メタン発酵)、バイオガス精製設備のEPC・AOM (都市ごみ焼却：1960年～日立造船のライセンサー)
主要市場	欧州、中東、北米
市場でのポジション	欧州シェアNo.1(2015年-2017年累計)
主要顧客	廃棄物処理事業者、地方自治体
組織/拠点	本社：スイス、サービス拠点：スイス・ドイツ・イギリス・フランス 営業拠点：米国・UAE・オーストラリア、調達拠点：タイ、エンジニアリング拠点：スロバキア

## ② Inova社 買収後の業績推移



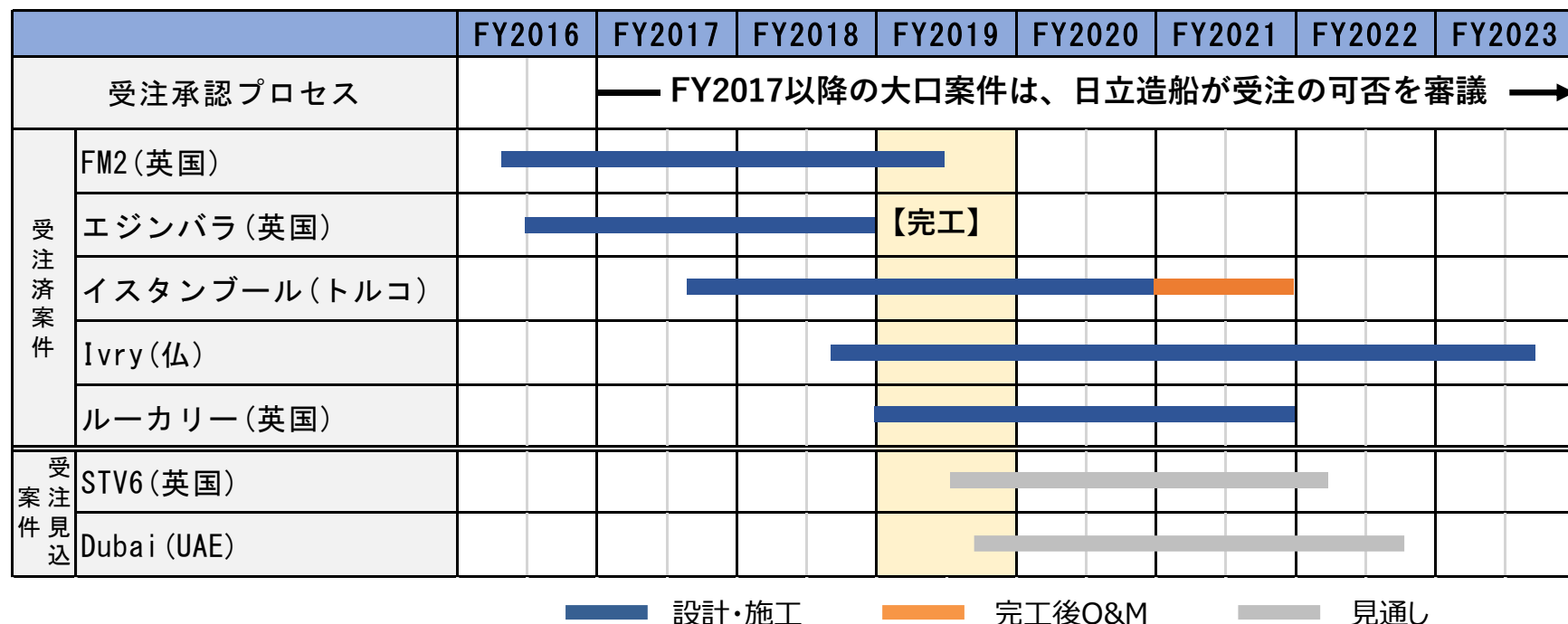
：大型EPCの受注案件数を示す

## ③ EPC案件 収益回復の要因

FM2の完工およびイスタンブール案件の進捗により、黒字化を目指す

FM2	2019年9月に完工予定。
イスタンブール	2019年度2Qに機器搬入・据付が開始予定。
Ivry	2018年11月に受注。火格子やボイラなどの設計業務および機器供給。
ルーカリー	2019年3月に受注（531t/d × 3 炉）。

## ④ 工程表





## ①フェリーブリッジ2 プロジェクト

### ■プロジェクト概要

- ・事業内容：EfW施設のEPC（処理能力：2,030t/d(1,015t/d×2炉)）
- ・完工予定日：2019年9月

### ■コスト増加要因と対応策

#### 2018年度のコスト増加分（64億円）を当該年度に計上

##### 増加要因

- ・ボイラー据付業者の契約解除
- ・大型モジュール工法の採用
- ・発注単位の細分化
- ・現地労働者の低生産性

##### コスト増加の内訳

- ・ボイラー据付工事（37億円）
- ・物量見込差（9億円）
- ・工程遅延（12億円）
- ・ストライキ発生（11月、2週間）による影響（6億円）

対応策：プロジェクトチームの強化

- ・コストコントローラー交代・増員(2018年6月)
- ・プロジェクトダイレクター交代(同8月)
- ・サイトマネージャー・SVの増員(同8～9月)

成果：コスト把握と進捗管理の正確性向上

課題：現地労働者の生産性改善と納期確保

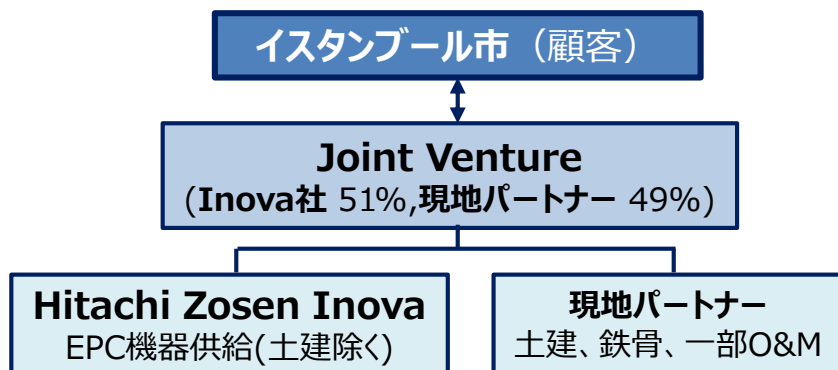


## ②イスタンブールプロジェクト

### ■プロジェクト概要

- トルコ初受注
- 事業内容：EfW施設のEPC+1年間のO&M
- 処理能力：3,000t/d (1,000t/d×3炉)
- 完工予定日：2021年3月(当初2020年10月)

### ■契約形態



### ■リスクヘッジ

- エスカレーション条項付きの契約
- 為替リスクは現地パートナーが負担
- 工事代金回収リスクに対しては、貿易保険 (SERV\*保険) でカバー

\* スイスの公的輸出信用機関で、日本のNEXIに相当



### ■プロジェクト進捗状況

- サイトでは、土工事実施中
- Inova社においては、詳細設計及び機器調達業務実施中 (2019年3月末進捗率：約41%)
- 機器搬入・据付は2019年度2Q開始予定

## ■ サービス事業の進捗状況

- 体制強化(組織・人員)およびサービスメニューの拡大(基幹改良工事の増加)を推進
- 英国サービス事業の合併会社を設立
- ドイツで基幹改良案件を受注(2件)

### <EfWサービス市場環境>

- 英国のEfWプラント数：稼働中45件(内Inova社9件)、建設中16件(内Inova社2件)
- ドイツのEfWプラント数：稼働中81件(内25年以上稼働50ライン以上)
- スイスのEfWプラント数：稼働中30件(内Inova社25件)
- メンテナンス需要増加傾向：既存プラントの老朽化対応

## ■ バイオガス事業の進捗状況

- 2018年4月にInovaグループのバイオガス関連事業を統括する部門(Renewable gas部)を立ち上げ、嫌気性消化(メタンガス発酵)技術、バイオガス精製技術、PtG技術を含めた包括的な事業提案が可能な体制を構築。
- メタンガスプラントの自社運営案件として、米国で1件稼働中、スウェーデンで1件建設中。



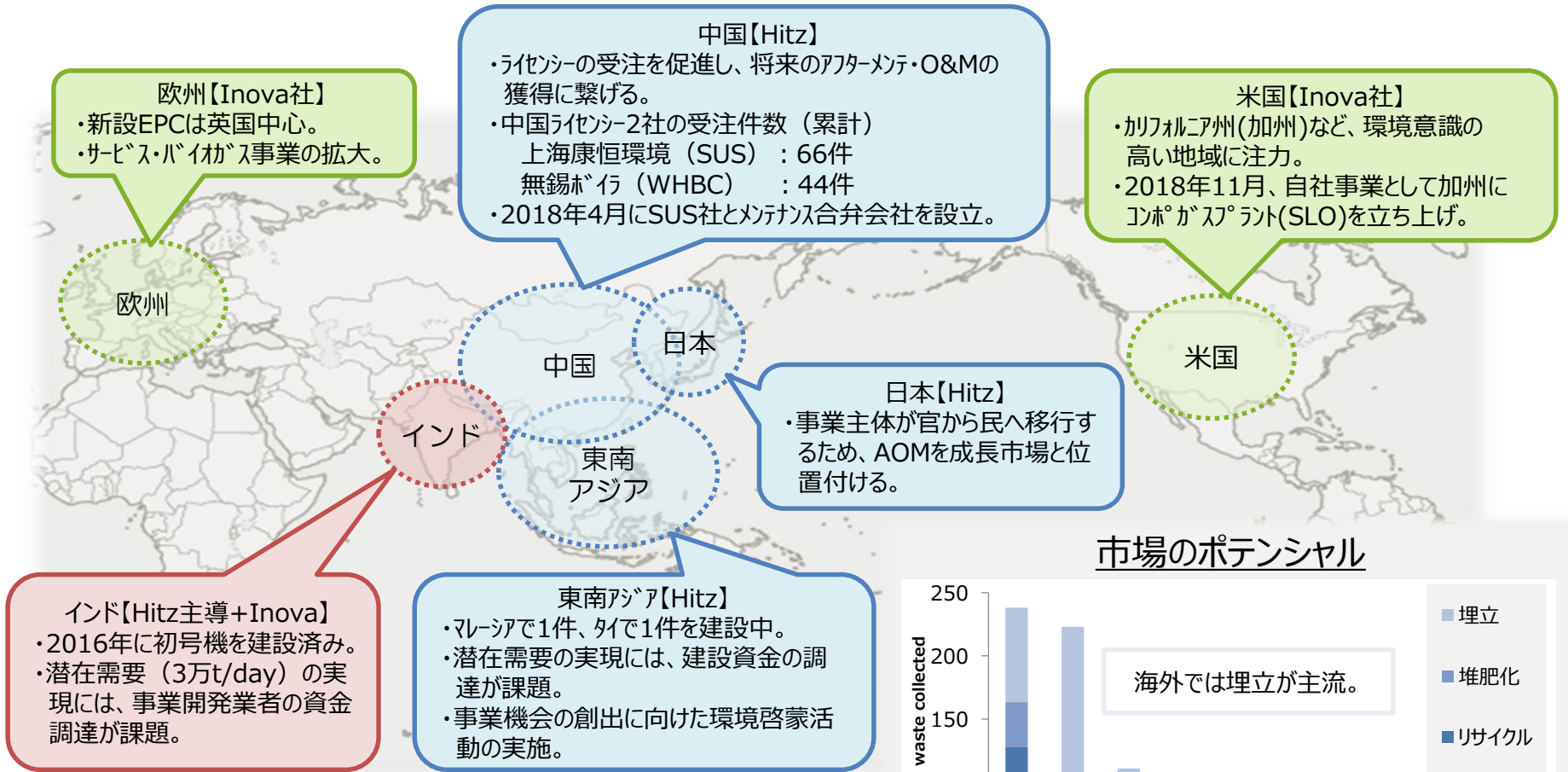
米国カリフォルニア州 メタンガスプラント(SLO)

### Inovaグループサービス事業の推移 (億円)

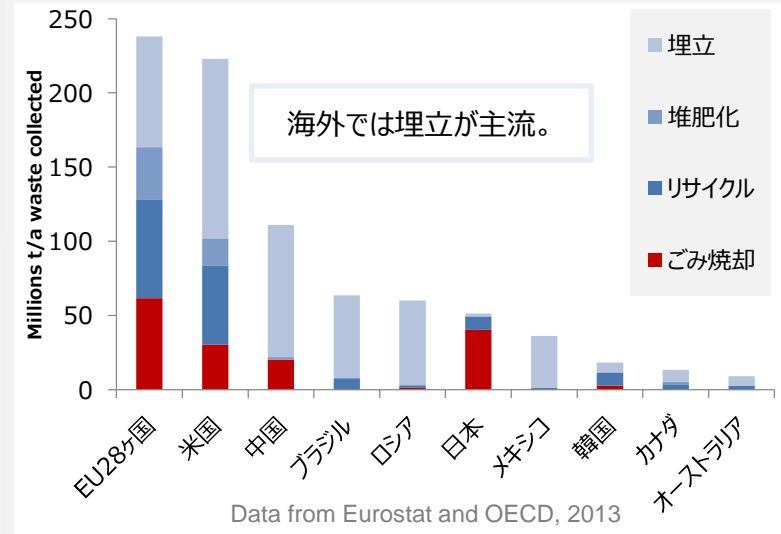
	2017年度 (実績)	2018年度 (実績)	2019年度 (見通し)
受注高	60	102	150
売上高	63	75	95

### Inovaグループバイオガス事業の推移 (億円)

	2017年度 (実績)	2018年度 (実績)	2019年度 (見通し)
受注高	45	73	101
売上高	56	49	71



## 市場のポテンシャル



## ■ 当社グループのEfW事業の特徴

- ・各地域の実情・ニーズ合うよう、焼却方式とバイオガス方式の2つの選択肢を提供。
- ・ごみ焼却発電施設の先進国においては、AOM\*を拡大。

\* AOM: After-sales service, Operation and Maintenance

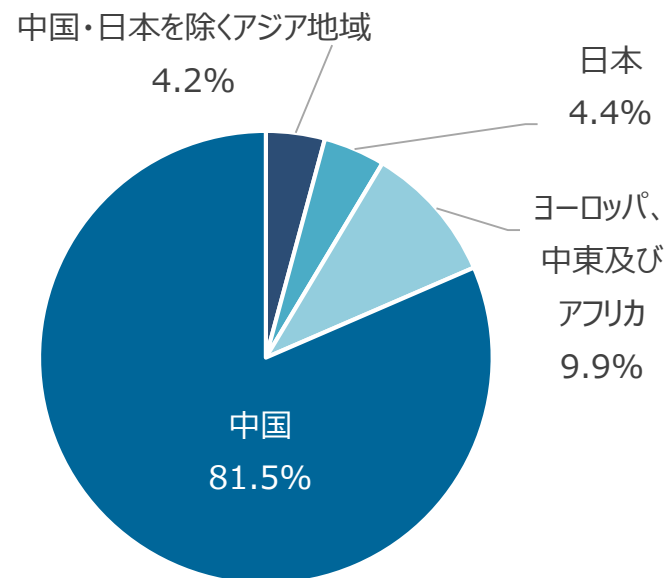
### ■ 中国の市場規模と成長性

- 中国は世界最大のEfW市場。
- 2020年までは、年当たり発注量6～7万t/dの見込み。
- 中国メーカーの台頭により、国際入札案件は減少傾向。

### ■ 当社の事業展開

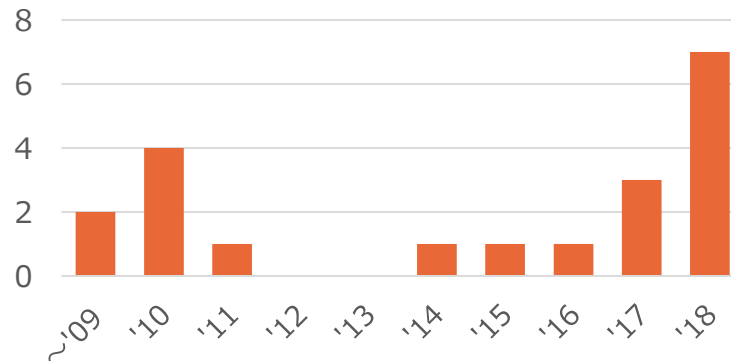
- HZI実績を活用し、国際入札案件(大型炉)の受注を増加。
- 中国国内メーカーに限定される入札案件に対しては、2009年から、上海康恒環境 (SUS) および無錫ボイラ (WHBC) にライセンスを供与して対応。
- 2018年4月にSUS社とメンテナンス事業を行う合併会社を設立。

### 世界のEfW市場 (2015-2017)



Source: Vaccani Worldwide Market Share Analysis of Thermal Waste Treatment Plants, 2018 Edition

### 当社の受注件数の推移 (年度別)



### ライセンサーを含めた累計受注件数 (2019.3時点)

Hitz	23件 (7件)	累計133件(21件)
SUS	66件 (8件)	
WHBC	44件 (6件)	

※ ( ) 内は2018年度実績

### ■ 今後の事業展開

- ライセンサー受注の促進によりシェアを増やし、AOM事業の拡大に繋げる。

## ■ 開発の目的：自動化レベルを3から4へ

- ・ごみは性状により発熱量が変化するため、ごみ変動(※)等に対応して安定した燃焼・発電を行うためには高度な技術が必要
- ・現状は運転員の熟練度に頼る部分多い(レベル3)
- ・自動運転領域の拡大により、安定燃焼・発電および運転員の作業負荷軽減の実現(レベル4)を目指す

自動化レベル	自動化の内容	実用化
レベル1、2	運転員の操作をサポート。	済
レベル3	基本的にすべての動作が自動化。ごみ変動時は運転員の技量に頼る。	済
レベル4	通常運転時はすべての操作が自動化。ごみ変動時でも自動で対応。	開発中
レベル5	あらゆる操作において自動化。	将来

## ■ 開発内容と進捗状況

- ・当社が納入したEfW施設（杉並清掃工場、松山市西グリーンセンター）にて試験を実施
- ・Hitz先端情報技術センター（A.I/TEC）を活用し、複数の大手IT企業と連携して開発を推進
- ・燃焼状態予測モデルの導入により、燃焼異常時間が半減し、運転員の手動操作頻度も大幅に減少

(※)ごみ変動：ごみの性状(性質と状態)が大きく変動すること



## 当社AS-LiB<sup>®</sup>の特徴

### ・高い安全性

- ・固体電解質が難燃性であり、液漏れや可燃性ガスの発生がない

### ・広い使用温度範囲

- ・-40℃で放電可能、+120℃で充放電可能

### ・使用可能環境の多様性

- ・ $1.0 \times 10^{-2}$ Paという真空環境下でも安定動作が可能

当社AS-LiB<sup>®</sup>の外観



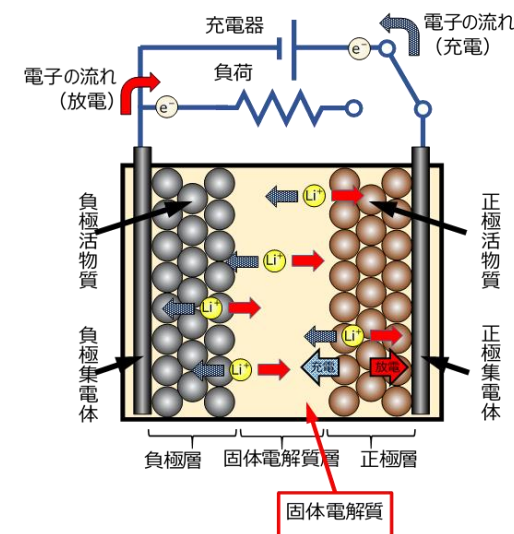
## 事業化への進捗状況

- ・2019年度から、AS-LiB<sup>®</sup>の特徴を活かせる特殊用途向けに、少量ながらテストプラントでの商用生産を開始予定

- ・本格的な商用生産は、下記の技術開発上の課題を解決した後の、将来的な取組みと位置付けている

課題	取組み状況
①標準化	耐熱性等の差別的な性能確立を目指し、電池設計や製造手法の標準化を推進中
②品質安定・生産性向上	本格的な商用生産に向けて、品質安定や自動化等の生産性向上に必要な技術を開発中
③製造コストの低減	販売価格の引下げに向け、上記の課題①・②を解決する中で、製造コストを低減する

当社AS-LiB<sup>®</sup>の概略図



下記の構造改革を実施し、2019年度赤字幅縮小、2021年度黒字化を目指す。

## 1. アフターサービス事業の伸長

- ・部品販売をサービス提案型に移行（主機の状態診断、予防保全の提案）
- ・主機性能アップを目的とした改造工事の実施
- ・海外のサービス体制を強化（シンガポール・中国・台湾）

## 2. 原動機プライスアップと安定的受注の確保

- ・顧客別にターゲットを定め、プライスアップを実現  
（船価の回復傾向および競合状況の緩和等により、受注環境は好転）
- ・年間40台～45台の受注を確保

## 3. コストダウン

- ・材料・外注費：主要部品の調達先を複数確保し、コストダウンを実現
- ・工費：同型船の見込生産による工程平準化と生産性向上

	実績			見通し
	2016	2017	2018	2019
受注高	208	177	218	250
売上高	255	204	203	220
営業利益	▲4	▲3	▲12	▲5



---

## 5. 補足資料（小セグメント）

# 計数計画（環境・プラント部門 小セグメント 年間）

(億円)

		2016年度	2017年度	2018年度			2019年度	比較	
		実績	実績 (a)	見通し (2018/11)	見通し (2019/3) (b)	実績 (c)	見通し	対 前年度 (c)-(a)	対 2019/3 (c)-(b)
受注高	EPC(新規建設)	1,170	868	1,390	1,240	1,323	1,240	455	83
	継続的事業	1,236	1,704	1,410	1,660	1,824	1,160	120	164
	計	2,406	2,572	2,800	2,900	3,147	2,400	575	247
売上高	EPC(新規建設)	1,300	974	1,060	1,060	933	1,030	▲ 41	▲ 127
	継続的事業	1,246	1,344	1,340	1,340	1,350	1,370	6	10
	計	2,546	2,318	2,400	2,400	2,283	2,400	▲ 35	▲ 117
営業利益	EPC(新規建設)	▲ 49	▲ 126	▲ 90	▲ 85	▲ 84	▲ 25	42	1
	継続的事業	162	139	145	150	140	125	1	▲ 10
	計	113	13	55	65	56	100	43	▲ 9

# 計数計画（機械部門 小セグメント 年間）

(億円)

		2016年度	2017年度	2018年度			2019年度	比較	
		実績	実績 (a)	見通し (2018/11)	見通し (2019/3) (b)	実績 (c)	見通し	対 前年度 (c)-(a)	対 2019/3 (c)-(b)
受注高	船用原動機	208	177	195	195	218	250	41	23
	プレス	236	229	215	215	236	220	7	21
	プロセス	183	151	160	160	125	200	▲ 26	▲ 35
	精密機械	287	270	255	255	249	250	▲ 21	▲ 6
	その他	155	157	175	175	179	180	22	4
	計	1,069	984	1,000	1,000	1,007	1,100	23	7
売上高	船用原動機	255	204	210	210	203	220	▲ 1	▲ 7
	プレス	241	244	210	210	253	220	9	43
	プロセス	164	137	165	165	189	150	52	24
	精密機械	218	270	250	250	253	220	▲ 17	3
	その他	159	151	165	165	168	190	17	3
	計	1,037	1,006	1,000	1,000	1,066	1,000	60	66
営業利益	船用原動機	▲ 4	▲ 3	▲ 8	▲ 8	▲ 12	▲ 5	▲ 9	▲ 4
	プレス	23	10	8	3	▲ 1	5	▲ 11	▲ 4
	プロセス	0	3	7	2	▲ 5	5	▲ 8	▲ 7
	精密機械	2	15	12	12	10	5	▲ 5	▲ 2
	その他	1	0	1	1	5	0	5	4
	計	22	25	20	10	▲ 3	10	▲ 28	▲ 13



# 地球と人のための技術をこれからも

日立造船はつないでいきます。かけがえのない自然と私たちの未来を。

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

**Hitz**  
Hitachi Zosen

日立造船株式会社

<http://www.hitachizosen.co.jp/>